

St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度 (平成20年度)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



XI 看護実践開発研究センター

開設6年目を迎えた看護実践開発研究センターは、看護実践開発、研究支援、実践、生涯学習支援、交流、情報発信の機能を有し、看護ケア研究部門、教育研究部門、国際看護研究部門、政策研究部門、継続教育部門を構え、研究センター運営委員会のもと活動を行った。

1. 研究センターの運営および構成員

研究センター運営委員会（以下、運営委員会）は、センター運営に関する重要事項を審議するために設置され、2008年度の委員会メンバーは、センター長（山田雅子教授）、研究科長（堀内成子教授）、各部門長（看護ケア研究部門長；小松浩子教授、教育研究部門長；菱沼典子教授、国際看護研究部門長；田代順子教授、政策研究部門長；井部俊子教授、継続教育部門長；松谷美和子教授）、専任研究員（森明子教授、小口江美子教授、吉田千文准教授、矢ヶ崎香助教、細川恵子助教、實崎美奈助教）とオブザーバー（山口喜義事務局長）で構成した。なお今年度は、聖路加・テルモ共同研究事業の実施に関連して教授1名（2007年12月から配置）、認定看護師教育課程開講に関連して、教授1名、助教3名、非常勤講師2名（竹森志穂、沼田美幸）が追加され、常勤の専任研究員はセンター長を含め、昨年度の3名から7名に増員された。

運営委員会は、毎月1回、計11回開催され、主な検討事項は、研究センターの事業運営、認定看護師教育課程の開講・運営、看護管理者養成セカンドレベル講習の開講・運営、各種研究員の承認、各部門の活動報告などであった。

運営委員会に関連する会議には、センタースタッフミーティング、るかなび運営委員会、研究センターHP検討会（新）、認定看護師教育課程教員会・入試委員会、認定看護管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会がある。

2008年度に新たにスタートした事業は、ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ、リンパ浮腫ケアステーション、新健康カレッジ、ストレスマネジメントヨーガ、在宅ケアコンサルテーション、退院調整看護師養成プログラムと活動支援、認定看護師教育課程の3コースであり、合計30事業が展開された。なお、リンパ浮腫ケアステーションの実施に関しては、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に則った施術所としての届出を東京都に行い、保健所から視察を受けた後6月10日に認可された。

2. 研究実績

1) 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧

◎はセンター長, ○は専任研究員, *は部門長

部門	氏名	研究テーマ	補助金名
看護ケア研究	有森 直子	女性のリプロダクション健康課題の意思決定支援教育コンソーシアムとプログラム検証 出生前検査の選択を考慮する女性をエンパワメントする包括的意思決定支援の介入研究	文部科学省科研費
	市川和可子	がん体験者が伴走する Web 版乳がん患者サポートグループの開発	文部科学省科研費
	糸井 和佳	都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流を促進する支援の開発	文部科学省科研費
	卯野木 健	気管挿管・人工呼吸器使用患者における簡便なせん妄評価法の信頼性・妥当性の検討	文部科学省科研費
	江藤 宏美	乳幼児の睡眠分析システム情報共有プラットフォームの構築	文部科学省科研費
	及川 郁子	子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築	文部科学省科研費
	大久保暢子	慢性期脳血管障害患者の寝たきりを防ぐ背面開放座位ケアプログラムの開発	文部科学省科研費
	大熊 恵子	病棟看護師が認識している統合失調症患者への退院支援の困難さの分析	文部科学省科研費
	大森 純子	前期高齢女性の近隣他者との交流関係を活用した主体的健康増進プログラムの開発	文部科学省科研費
	小野 智美	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムの評価への段階的研究	文部科学省科研費
	梶井 文子	認知症高齢者の学際的チームアプローチに関するケアの質評価システムの開発	文部科学省科研費
	片岡弥恵子	アジア文化圏に生きる女性への DV 支援ガイドライン創生と検証 Quality Indicator の開発：社会に対し出産ケアの質を保証するために	文部科学省科研費
	亀井 智子	急増する在宅慢性呼吸不全患者の入院を予防するテレナーシングの日本への実践的導入	文部科学省科研費
	萱間 真美	精神科疾患を有する人の地域生活を支えるエビデンスに基づいた看護ガイドラインの開発 精神障害者の退院促進と地域生活のための多職種によるサービス提供のあり方とその効果に関する研究	厚生労働科研費 厚生労働科研費
	*小松 浩子	患者と医療者が分かり合えるがんコミュニケーション促進モデルの開発と有用性検証 市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ぬるまちづくり」の開発と評価	文部科学省科研費 厚生労働科研費
佐居 由美	看護師の「安楽なケア」実践を促進するためのプログラムの開発と評価	文部科学省科研費	
佐竹 澄子	寝たきり患者の副交感神経優位を導く聴覚刺激	文部科学省科研費	
外崎 明子	がんサバイバーの身体活力回復プログラムの構築と評価研究	文部科学省科研費	

	長松 康子	アスベスト関連相談に関する保健師向けガイドラインの構築と評価	文部科学省科研費
	永森久美子	生後14日間における母乳育児支援のための哺乳行動アセスメントツールの開発	文部科学省科研費
	平野 優子	在宅人工呼吸器装着 ALS 患者の困難と人生再構築支援ガイドライン作成への縦断的研究	文部科学省科研費
	平林 優子	子どもの医療的ケアの自律的日常生活行動への導入に関する看護支援プログラムの作成	文部科学省科研費
	堀内 成子	貴重児妊娠の不安を軽減するための就寝中胎動ホームモニタリングの実用化開発 ユビキタス IP-TEL 産科医療通訳システムの開発	文部科学省科研費
	○森 明子	排卵誘発剤を使用する女性が安楽に安心して過ごすためのセルフケア支援モデルの効果	文部科学省科研費
	○矢ヶ崎 香	がん医療における EBN と臨床実践の gap と波及モデルの開発	文部科学省科研費
教育 研究	麻原きよみ	地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発と評価	文部科学省科研費
	奥 裕美	夜勤から始める新人看護師オリエンテーションプログラムの開発とその評価	文部科学省科研費
	萱間 真美	質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成に関する研究	文部科学省科研費
	中山 和弘	インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のための e ラーニング開発 患者・家族・国民の視点に立った適切ながん情報提供サービスのあり方に関する研究	文部科学省科研費 厚生労働科研費
	*菱沼 典子	少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの開発	文部科学省科研費
	柳井 晴夫	臨地実習生の質の確保のための看護系大学共用試験 (CBT) の開発的研究	文部科学省科研費
国際看護研究	*田代 順子	看護学でのサービスラーニングを応用した都市型・社会参加型カリキュラム開発と評価 開発途上国看護職の国家間移動を押し止めるホールドファクターとしての現任教育の検討	文部科学省科研費
政策 研究	*井部 俊子	サービスマネジメントをフレームワークとした看護管理学の体系化に関する研究	文部科学省科研費
	萱間 真美	精神障害者の訪問看護におけるマンパワー等に関する調査研究	厚生労働科研費
	廣岡 佳代	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	厚生労働科研費
	鶴若 麻理	アジアの高齢者の終末期医療をめぐる事前指示に関する国際比較研究	文部科学省科研費
	◎山田 雅子	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	厚生労働科研費

2) 客員研究員および研究テーマ一覧

部門	氏名	研究テーマ	共同研究者	所属
看護 ケア 部門	石井 慶子	死産を経験した家族への支援	堀内 成子	お空の天使パパ&ママの会 (WAIS) 関東支部
	太田 風子	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	尾形美奈子	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	片桐麻州美	周産期病棟におけるセルフマネジングチーム制の評価	堀内 成子	社会保険中央総合病院
	川北 智子	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	広田内科クリニック
	小林 紀子	母乳育児	永森久美子	ルカ子母乳育児相談研究所
	相良-ローゼンマイ-みはる	看護研究の方法論としての現象学の追及	堀内 成子	旭川医科大学医学部看護学科 聖路加国際病院小児科
	佐藤佳代子	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	田中 明恵	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所
	中川 有加	Women-centered Care	堀内 成子	大阪赤十字病院
	矢形 寛	リンパ浮腫ケアステーション	小松 浩子	聖路加国際病院
教 研 育 究	大久保菜穂子	市民との協働による健康支援ボランティア教育プログラムの開発	菱沼 典子 山田 雅子	日本伝統医療科学大学院大学
政 策 研 究	内田千佳子	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ぬるまちづくり」の開発と評価	山田 雅子	在宅ホスピス協会
	大久保菜穂子	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ぬるまちづくり」の開発と評価	山田 雅子	日本伝統医療科学大学院大学
	霜田 美奈	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ぬるまちづくり」の開発と評価	山田 雅子	ボランティアグループ・パリアン

3. 研究事務支援

研究助成金他情報提供、文部科学省科学研究費補助金、厚生労働省科学研究費補助金、聖路加・テルモ共同研究事業、日本学術振興会特別研究員、府省共通研究開発管理システムについての支援を行った。

具体的な支援内容は以下のとおりである。

(1) 研究助成金他情報提供

研究助成金、研究員募集について29件の情報提供と内容相談を行った。

(2) 文部科学省科研費事務

本年度は、39件[基盤研究23件、萌芽研究4件、若手研究(B)9件、若手研究(スタートアップ)2件、特別研究員奨励費1件]の事務を行った。

① 申請業務

- ・前年度実績報告書（4月）
- ・当年度交付申請書（5月）
- ・前年度成果報告書（6月）
- ・次年度研究計画調書（11月）

② 手引きの作成

- ・「文部科学省科学研究費補助金の取扱いについて－平成20年度版－」
- ・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、「文部科学省科学研究費補助金の取扱いについて－平成21年度版－」の作成にあたり、改訂に向けての作業を行った。

③ 会計業務

- ・提出書類の確認、出納業務
- ・収支簿作成

④ 相談業務

⑤ 説明会等の開催

2008年5月20日、27日(火) 取扱いについての説明会

〃 10月3日(金) 研究計画調書申請公募要領等説明会

2008年12月17日(水) 会計監査報告会

(3) 厚生労働科研費事務

本年度は、7件について事務を行った。

① 会計業務

- ・通帳作成
- ・個人別会計書類作成、配付
- ・提出書類の確認、出納業務
- ・収支簿作成

② 相談業務

(4) 聖路加・テルモ共同研究事業

① 会計業務

- ・プロジェクト別会計書類作成、配付
- ・物品発注
- ・プロジェクト、全体書類の作成・確認、出納業務、予算管理
- ・収支簿作成

② 相談業務

③ セミナー等のサポート

<セミナー等>

- ・ナースクリニック

るかなび

乳がん女性のためのサポートプログラム

こどもの健康、知ろう、考えよう！

ー子どもの健康を家族と考える学習・交流会ー

出張介護講座

転倒骨折予防体操教室

ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ

天使の保護者ルカの会

・市民健康講座

新健康カレッジ

(5) 日本学術振興会特別研究員

① 申請業務

・新規申請1件 (DC1件)

(5) 府省共通研究開発管理システム (e-Rad) の管理、運用

① 研究機関申請

② 研究者情報

4. 実践

研究センターにおける市民との協働により開発されてきている看護提供方法としては、るかなびとナースクリニックに分類されている11事業が該当する。以下にそれらの概要を記す。

1) 聖路加健康ナビスポット；るかなび

聖路加健康ナビスポット『るかなび』は、2004年5月から健康情報サービスを始め今年で5年目を迎えた。2008年度は聖路加・テルモ共同事業の一つとして運営されている。市民一人ひとりが主体的に健康生活を送るために、質の高い健康情報を提供することを目指している。ここ『るかなび』では、市民を対象に、パンフレットや図書提供、およびインターネットによる情報検索、看護師・保健師・助産師などによる健康相談と、血圧測定、骨密度測定、身長・体重・体脂肪測定などの健康チェックサービスを行っている。

『るかなび』の運営は、るかなびコーディネーター2名（看護師・司書、各1名）を中心に、るかなびボランティア（看護師など医療専門職・市民）と、教員、職員（司書）、本学大学院生で構成されるるかなび運営委員会で議論し進められてきた。るかなびボランティアには、医療専門職として本学卒業生や、本学教員の関係者、また、サイコセラピスト、管理栄養士といった有資格者がボランティアとして登録している。さらに、センター事業である「健康支援ボランティア講座」を修了した市民も市民ボランティアとして活動に加わり、今年度8名の新規登録者を含め総勢21名の市民が活動に参加している。

『るかなび』の主な活動は、「健康相談」「健康チェック」「健康情報の提供」「闘病記の提供」である。加えて「ランチタイムミニ健康講座・コンサート」「CHADO」などのイベント開催、「中央区福祉祭り」「白楊際」「聖公会フェスティバル」に参加し、るかなびを理解してもらう活動をしている。

『るかなび』の健康相談などの利用状況は、年間約1,140名の利用者となり、昨年度より157名増加した。1,140名の内訳は、女性が8割以上であり、年齢層は50代、60代が5割を占めている。

中でもリピーターの利用者が4割だった。今年度は5月から1月の間、利用者に健康相談の評価をしてもらうため、はがきを使ったアンケートを行った。221枚配布し回収された168枚（回収率76.0%）の結果では、健康相談の満足点（10点満点）は平均9.24点、そのうち10点満点が100名（59.5%）だった。再利用の希望者は159名（94.6%）だった。

「健康チェック」では骨密度測定を行っている。今年度は骨粗鬆財団の研究助成を受け、年代別の課題を踏まえた骨粗鬆症ならびに骨粗鬆症から生じる障害の予防のための教材作成に取り組んだ。まず360名に骨粗鬆症に関するアンケートを行い、年代別に骨粗鬆症に関する知識、骨密度に影響する生活習慣等を把握したうえで、年代の特徴に合った教材を作成している。教材は来年度早々から『るかなび』で使えるようになる予定である。

闘病記コーナーでは、新たに410冊を加え、1,417冊となった。冊数がふえたことで、新しく「闘病記文庫ブックリスト2008」を作成し、病名、書名検索をしやすくした。

また、ランチタイムミニ健康講座・コンサートは9回開催し、参加人数は延べ441名だった（表1）。リピーターが毎回半数を占めており、イベントが地域に定着してきていることがうかがえる。ミニ講座では、るかなび市民ボランティア3名がそれぞれの闘病体験や育児体験を市民の目線で講演し、会場からも質問や意見が出され好評だった。さらにその講演をきっかけにして別の施設での講演依頼が入り、市民ボランティアの活躍の場が広がっている。

表1 2008年度 ランチタイムミニ講座&ミニコンサート開催覧

ミニ講座演題/演者	ミニコンサート/演奏者	参加者数
ナースがすすめる良い病院の見方/奥裕美・中村綾子	ソプラノ独唱/野村浩子・ピアノ伴奏/大久保礼子	55
地域で育てる子育ての輪/中村佳子	アイリッシュハーブ/吉田清子	50
高血圧が気になるあなたにちょっと食事アドバイス/鈴木孝子	落語/三朝亭半°左（山上伸治）	48
特定健診について/溝口千鶴	ラテンハーブ/高橋麻由	40
自らの命は自らのもの一賢い患者になろう/ 秋元君男	クラリネット・ニューフォニウム演奏/ ラーボ・ラ・ガンバ	69
赤ちゃんの話—子育てのちえ—/江藤宏美	ソプラノ独唱/畑野良子・ピアノ伴奏/ 安久津素子	48
病を得て想うこと—闘う—/福田茂代	合唱/聖路加看護大学聖歌隊	53
アメリカの国立公園の旅から—お湯があるのに温泉宿はない!!/菱沼典子	落語/三朝亭半°左（山上伸治）	42
介護ヘルパーの一週間/木村務子	アイリッシュハーブ/吉田清子・朗読/長谷川百合子・ ピアノ/堀江晃子	36

CHADOは、通常の図書閲覧コーナーを簡易の茶室に設営して行っている。今年度は11回開催した。

地域との連携として、中央区の健康福祉祭りにるかなびボランティアと共に参加し、骨密度測

定や体脂肪測定、結果を基にした食事のアドバイスを行った。また、「自分のからだを知ろう」キャラバンが創作した「からだ踊り」「からだ紙芝居」を屋外の舞台でも披露した。骨密度測定にはたくさんの人が訪れ、大盛況だった。

さらなるかなびは、大学の事業として教育研究の役割も担っている。今年度は本学の「生涯発達看護論Ⅱ」「看護援助論Ⅰ」の実習で計10名の学生を受け入れた。また、「看護形態機能学」の学習の一環で、学生が市民向けのパンフレットを作成しており、今年度も4種類のパンフレットを市民に配布している。

『るかなび』は、市民ボランティアと専門職ボランティアが協働して活動をすることを目指してきた。現在、健康相談は専門職ボランティアが行い、その他の受付や、利用者の目的に応じた案内、健康チェック、地域への広報活動などは市民ボランティアが担って活動している。また、定期的に会議やミーティング、事例検討会を開催している。さらに市民ボランティアの発案で、ボランティア同士のコミュニケーションを円滑にするため、年に4回のボランティアニュース作りを始めた。専門職と市民が互いに自由に意見を出し合うまでにはまだ至っていないが、徐々にコミュニケーションを重ね人間関係ができてきている。来年度は、ボランティアが新たな役割をもって『るかなび』活動により主体的に参加していくことを目指していく。

2) ナースクリニック

ナースクリニックは、看護師がもつ専門的な知識を背景に、個人相談やケア、サポートグループなどを行っている。2008年度に実施されたナースクリニック事業の概要を表2に示した。2008年度に新たに開設されたものは、リンパ浮腫ケアステーション、ルカ子ウィメンズヘルス・カフェの2事業である。

リンパ浮腫ケアステーションは、聖路加国際病院と連携し、施術所として乳がん患者のためのケアを多職種連携の中で提供している。また病院看護師を対象とした教育プログラムも開講している。ルカ子ウィメンズヘルス・カフェは、認定看護師教育課程（不妊症看護コース）を開講するに当たり、実践および教育の場として設置された。

これらのナースクリニックは、教育との連携という側面で、学部学生の臨地実習、大学院生の研究フィールドとして貢献している。しかし各種研究費を財源として実施しているのが特徴であるため、財源の継続的な確保が大きな課題となっている。

表2 ナースクリニック事業の概要

2008年4月～2009年3月実績

形態	名称	目的	対象	実施回数	実施者	年間利用者数
集団	赤ちゃんがやってくる	新しく赤ちゃんを迎える家族、特に兄弟が、妊娠・出産・新生児について学ぶことで、赤ちゃんを迎えるこころの準備ができる。また兄弟になる子どもたちが、生命の誕生について学び、体験を共有することで、自分の生・性を大切にできるようになる	兄弟になる子ども、次子を妊娠中の女性／家族	6回／年	開業助産師・大学教員他	175

個人相談 ・ケア	ルカ子母乳育児相 談室	子育て中の母親を対象に母乳 のケアを中心とした育児相談 事業を行う。学部学生が子育 て中の母と子に会い、母乳 育児相談の実際を学ぶ機会と する。また、子育て支援の一 端を担う助産師のかかわりを 知る機会とする	育児中の女性	毎週月・水曜日	大学教員 ・大学院生	383
集団	ルカ子ウィメンズ ヘルス・カフェ	①リプロダクティブ・ヘルス (妊娠・出産や子育て)をめ ぐるテーマで、学び語り合う 場の提供を通じ、女性が正し い知識・安心と信頼のもとで 自分らしいリプロダクティ ブ・チョイスができるように サポートする ②不妊症看護認定看護師教育 課程の研修生の教育(演習を 含む)の場・機会とする	女性	6回/年	大学教員 ・ピアグル ープ・研修 生	39
集団	乳がん女性のため のサポートプログ ラム	乳がんをもつ女性が主体的・ 効果的に治療を継続し、治療 を受けながら充実した生活が 送れるよう、個々の体験を分 かち合う場となる	乳がん治療中 の女性	9回/年	大学教員 ・看護師・ 大学院生	422
集団	子どもの健康、知 ろう、考えよう!	子どもの健康に関心のある子 どものご家族や、子どもに関 連した保健、福祉、教育に従 事している人々との交流や学 集会を通して、子ども健康サ ポートのためのネットワー クを広げていく	中央区に関係 する方で、お 子様の健康に 関わる方	4回/年	大学教員 他	60
集団	天使の保護者 ルカの会	流産・死産・新生児死亡など で子どもを亡くした母親や家 族のセルフヘルプ・ミーティ ングやグリーフ・ケアに関す る催し物を実施し、体験者を 支援する。周産期におけるピ リブメントケアについて学 習した大学院生・学部学生が、 体験者の思いや立場、セルフ ヘルプ・グループ活動の実際 と看護者のかかわりについて 学ぶ機会とする。病院で実際 に、流産・死産・新生児死亡 で子どもを亡くした母親や家 族をケアしている看護者に、 セルフヘルプ活動に参加する 機会を提供し、看護者が、体 験者の思いや立場、ケア、退 院後の支援などについて学習 できるよう支援する	流産・死産等 を体験した女 性/家族	9回/年	大学教員 ・大学院生 他	143
個人相談 ・ケア	リンパ浮腫ケアス テーション	がん治療に伴うリンパ浮腫の 予防、早期発見、適切なケア に関する、セルフケア教育お よび専門的ケアを実施し、が ん体験者が治療を受けなが ら充実した生活を送れるよう 支援することを目的とする	乳がんの治療 により、リン パ浮腫の予防 や改善を必要 とする方	毎週火曜日	大学教員 ・あん摩マ ッサージ 指圧師	150

個人相談・ケア	高齢者のための栄養相談・心理カウンセリング	①高齢や生活習慣病ならびに慢性疾患、障害等に伴う食生活ならびに栄養に関する相談に対して情報提供を行うことにより、高齢者およびその家族が、毎日の食事について安心して継続的に送ることができるように支援する ②高齢者およびその家族が抱える「不安やストレス」を「新しい自分」を発見するカウンセリングによりリフレッシュできるように支援する	高齢者とそのご家族	①栄養・食事相談：木曜日 ②真意カウンセリング：火・木曜日	大学教員、カウンセラー	18
集団	聖路加 和みの会	多世代の近隣区民が安心して参加でき、世代間交流を通じて、高齢者の“知恵”および“日本文化の継承”を促進するデイプログラムを創設し、提供する	高齢者・認知症を持つ方、介護者・学齢児、区民等	毎週金曜日	大学教員 他	975
個人相談・ケア	出張介護講座	地域のニーズに応じて町内会・婦人会・高齢者クラブ等に出張し、介護講座を行うことにより、希望に沿った関心あるテーマで実際に役立つ情報提供を行う	高齢者とそのご家族	随時	大学教員	115
集団	転倒骨折予防実践講座	転倒・骨折予防に関する教育や、継続実践可能かつ効果的な体操の実践により、高齢者の転倒や骨折を防止、日常生活を継続できるようなプログラム提供を行う	高齢者	5回／年	大学教員 他	55

5. 生涯学習支援

1) 看護専門職向け（ナーススキルアップ講座）

『ナーススキルアップ講座』は、忙しい看護職が通いやすい時間を設定し、生涯学習の契機となること、また受講者同士、そして大学教員・研究者との交流の場として機能することを目的としている。これまでのプログラムに引き続き、関心の高い内容と受講しやすい時間帯を検討し、以下のようにコースを設定した。

コースの概要は、各々のコースが短期間で気軽に受講できるように、夜間の毎週同じ曜日に集中して行う講座、2週間に1回開講する講座、また1年を通して学ぶことができるよう1ヵ月に1回など定期的に行う講座を設けた。2008年度は、「看護管理コンサルテーション」「緩和ケアコンサルテーション」「在宅ケアコンサルテーション」「がん看護 事例検討会」「精神看護 事例検討会」「退院調整看護師養成プログラムと活動支援」「EBN～さがす・よむ・つかう臨床研究～出張講座」「英文文献を読もう！パートⅠ～基礎編～」 「英文文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～」の9講座を開講した。講座の講師は、大学の教員およびセンターの専任研究員を中心に、昨年度から依頼している外部講師が加わった。このうち、「緩和ケアコンサルテーション」「がん看護事例検討会」は文部科学省がんプロフェッショナル養成プランの一環で行われている事業であり、無料で実施した。

今年度から新たに開始した事業としては、「在宅ケアコンサルテーション」「退院調整看護師養

成プログラムと活動支援」があり、退院調整に力を発揮できる看護師の養成を目的として、個別相談や、参加型講義を通じて活発なディスカッションが展開された。

また、参加者が少ない「英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～」については、今後、「英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～」との日程の組み方の工夫や、授業内容の違いの明文化など、新たな方法を模索することとなった。

【2008年度開講コース】

<看護管理コンサルテーション>

開催日：2008年5月～2009年2月 第2・4木曜日

講師：井部俊子（聖路加看護大学教授）

相談者数：1名

<緩和ケアコンサルテーション>

開催日：2008年4～2009年3月 随時

講師：梅田 恵（がん看護専門看護師・聖路加看護大学客員研究員）

相談者数：9名

<在宅ケアコンサルテーション>

開催日：2008年4～2009年3月 随時

講師：山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

相談者数：4名

<がん看護 事例検討会>

開催日：2008年4月19日、5月7日、6月11日、7月2日、9月3日、
10月1日、11月5日、2009年2月4日、3月4日/水曜日

講師：小松浩子（聖路加看護大学教授）

梅田 恵（がん看護専門看護師、聖路加看護大学客員研究員）

参加者数：40名

<精神看護 事例検討会>

期間：2008年4月18日、5月23日、7月18日、9月26日、
10月24日、11月28日/金曜日

スタッフ：萱間真美（聖路加看護大学教授）

瀬戸屋希（聖路加看護大学准教授）

大熊恵子（聖路加看護大学助教）

参加人数：141名／6回

<退院調整看護師養成プログラムと活動支援>

期間：2008年12月4日・18日、2009年1月8・22・29日/木曜日

講師：山田雅子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

吉田千文（聖路加看護大学看護実践開発研究センター准教授）

平野優子（聖路加看護大学助教）

長江弘子（岡山大学保健学研究科教授）

宇都宮宏子（京都大学医学部附属病院看護師長）

受講者数：41名

<EBN～さがす・よむ・つかう臨床研究～出張講座>

開催日：申込施設に応じる

講師：片岡弥恵子（聖路加看護大学准教授）
江藤宏美（聖路加看護大学准教授）
松本直子（聖路加看護大学図書館司書）
佐藤晋巨（聖路加看護大学図書館司書）
八重ゆかり（東京大学大学院博士課程）

申込施設数：0箇所

<英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～>

・開催日：①2008年7月3・10・17・24・31日/木曜日
②2009年1月8・15・22・29日、2月5日/木曜日

講師：園城寺康子（前聖路加看護大学教授）

受講者数：①13名， ②11名

<英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～>

期間：①2008年7月3・10・17・24・31日/木曜日
②2009年1月8・15・22・29日、2月5日/木曜日

講師：田代順子（聖路加看護大学教授）

受講者数：①3名， ②4名

2) 市民向け講座

市民向け講座は、地域に開かれた大学として、幅広い知識、教養を得る場を市民に提供するとともに、大学と一般市民との交流を深めることをめざして、「聖路加市民アカデミー」や「健康支援ボランティア講座」、中央区との連携企画「中央区民カレッジ～まなびのコース」「朗読の会」「ストレスマネジメントヨーガクラス」「新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！ はつらつキャリアウーマン編」「新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！ はつらつシニアステージ編」の7講座を開講している。中央区との連携企画である中央区区民部文化・生涯学習課主催の「中央区民カレッジ～まなびのコース」（前後期の2コース）においては学内教員が講義を行い、それをふまえた実習としてヨーガを取り入れ、これを外部講師に依頼した。さらに、後期には「中央区民カレッジ～シニアコース（クラブ学習）」が行われ、学内講師およびかなびボランティアスタッフを講師として迎え、調理実習、ヨーガなどの実習を新たに取り入れた。また、家庭教育支援総合推進事業の一環として「妊娠中から子育てを楽しみましょう～マタニティヨーガ」も開講され、市民向け健康講座は計9事業となった。

今年度の実績は以下に示したとおりであるが、市民アカデミーは今年度から株式会社テルモとの共同事業となった。

市民アカデミーは、平日に行ったためか、昨年度より参加者の大幅な増加は見られなかったが、定期事業として着実に認識されてきているようである。朗読の会は固定の参加者が定着し、新規参加者も開始時に比べると増えてきている。また、中央区との連携企画に関しては、全コースとも定員以上の応募があり、抽選が行われたということからも、おおむね参加者からの評価が高い

ことがうかがえた。またアンケートの結果からもヨガを講義の中に組み込むことで、参加者に自分の健康についてより身近に感じてもらうことができたようである。

来年度は引き続き聖路加・テルモ共同研究事業の継続、新たに2つの講座も開講予定である。市民に向けた健康支援事業がますます増えることとなる。しかしながら、限られたスタッフによる時間や場所のマネジメントが年々難しくなっているのが現状であり、今後の検討課題である。

a. 聖路加市民アカデミー

開催日時：2008年10月10日（金） 13：30～16：00

講師：日野原重明（医師、聖路加看護学園理事長）

平松園枝（聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センターセンター長）

テーマ：生活習慣病予防のための健康チェック

コンサート：ピアノとカンツォーネ（独唱）

参加費：2,000円

参加人数：205名

b. 健康支援ボランティア講座

開催日：2008年①9月20日、②10月18日、③11月15日、④12月20日（各土曜日）

講師：①島内憲夫（順天堂大学教授）、②八木英之（中央区社会福祉協議会職員）、

③高橋恵子（聖路加看護大学 COE 研究員）、④大久保暢子（聖路加看護大学助教）

テーマ：①小さな健康哲学—WHO ヘルスプロモーションの視点から—

②ボランティアを考える

③話の聴き方・話し方

④自分のからだ、自分でする健康チェック

参加人数：36名／4回コース

c. 中央区民カレッジ

[まなびのコース：前期]

開催日：2008年①5月28日、②6月11日、③6月25日、④7月9日、⑤7月23日

講師：①菱沼典子（聖路加看護大学教授）、②④⑤花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）、

③大久保菜穂子（日本伝統医療科学大学院大学准教授）

テーマ：①「からだ」を知ろう

②自分のからだをみつめよう ヨーガ からだがかたいて本当？

③健康の新しい考え方—ヘルスプロモーション—

④自分のからだをみつめよう ヨーガ 深呼吸をしよう

⑤自分のからだをみつめよう ヨーガ リラクゼーションと瞑想

参加人数：25名／5回コース

[まなびのコース：後期]

開催日：2008年①10月15日、②10月29日、③11月12日、④11月26日、⑤12月10日

講師：①②大久保菜穂子（日本伝統医療科学大学院大学准教授）

③④⑤花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）

テ ー マ：①発見！私の健康習慣づくり—生活マップを作ろう—

- ②健康なまちづくり
- ③からだを動かそう ヨーガ（部位別）
- ④からだを動かそう ヨーガ（下肢）
- ⑤からだを動かそう ヨーガ（上肢）

参加人数：24名／5回コース

d. 中央区民カレッジ（シニアコース・クラブ学習）

開 催 日：2008年①9月18日、②9月16日、③9月30日、④10月7日、⑤10月21日、⑥11月11日、
⑦11月18日、⑧12月2日、⑨12月9日、⑩12月16日（各火曜日）

講 師：①⑤⑧ 白木和夫（聖路加看護大学客員教授）
②⑥⑨花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）
③⑩鈴木孝子（管理栄養士、聖路加健康ナビスポット・るかなびボランティア）
④萱間真美（聖路加看護大学教授）
⑦松本女里（保健師・看護師、聖路加健康ナビスポット・るかなびボランティア）

テ ー マ：①健康ってなあに？病気ってなあに？

- ②心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ&ヨーガ」1
- ③からだにやさしい食事を作ってみよう1
- ④うつの不安—身近な心の不調—
- ⑤がんは誰でもなる病気
- ⑥心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ&ヨーガ」2
- ⑦生活と健康について考えよう
- ⑧内外から自分のからだを見てみよう
- ⑨心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ&ヨーガ」3
- ⑩からだにやさしい食事を作ってみよう2

参加人数：19名／10回コース

e. 家庭教育支援総合推進事業「妊娠中から子育てを楽しみましょう」

開 催 日：2008年6月21日、7月19日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日（各土曜日）

講 師：花村睦（ハタヨーガ・ティーチャー）、本学教員

参加人数：76名／6回

f. 朗読の会～文学の中にみるいのち

開 催 日：2008年4月～2009年2月（毎月第2木曜日）

講 師：宮里和子（武蔵野大学教授）、堀内成子（聖路加看護大学教授）

参加人数：93名／9回

g. ストレスマネジメントヨーガクラス

開 催 日：Ⅰ期 2008年10月16日・23、11月13日・27日、12月11日・18日
Ⅱ期 2009年1月8日・22、2月12日、26日、3月5日・12日
それぞれ全6回（各木曜日）

講 師：小口江美子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）

参加人数：77名／12回

h. 新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！はつらつキャリアウーマン編

開催日：2008年①5月21日、②6月18日、③7月16日

講師：①森明子（聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授）
②関根さおり（ウイメンズ・ウェルネス銀座クリニック 医師）
③吉野一枝（よしの女性診療所院長）

テーマ：①妊娠を迎える女性のからだづくり、健康づくり
②体のサインに気づいて病気を未然に防ごう
③キャリアウーマンに増加している若年性更年期障害とは

参加人数：96名／3回

i. 新健康カレッジ もっと知ろう自分のカラダ！はつらつシニアステージ編

開催日：2008年①11月1日、②12月6日、③2009年1月10日

講師：①林田憲明（聖路加国際病院循環器内科部長）
②門伝昌己（聖路加国際病院内分泌代謝科）
③小松康宏（聖路加国際病院腎臓内科部長）

テーマ：①身近に起きる高血圧症とその対策
②健康診断で見つける糖尿病や糖尿病予備軍とその対策
③知っておくべき腎臓の働きや慢性腎臓病

参加人数：113名／12回